

登録コード	SD702200	開講年度	2026				
授業題目	アドバンス演習・実験・実習					担当教員	常盤 哲也
英文授業名	Advanced Exercise for Environmental Science					副担当	
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学年	2年
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目	
						備考	
信大コンピテンシー 該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、防災減災						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	日本アルプスやハケ岳などの山岳域およびその周辺に分布する地質体から調査対象とする地質体を選び（題材選び）、それについて文献調査を行い、現地における観察事項を整理する。現地における観察においては、整理した観察事項に基づく調査実習を行い、得られた情報について取りまとめる。						
(5)授業のキーワード	地質、地質構造、山岳、生態系、文献調査、現地調査						
(6)授業計画	4月に調査対象とする地質体を選び、5～6月に対象とした地質体の文献調査を行う。7月に対象地質体の調査実習を行い、データのとりまとめを行う。期末に授業アンケートを行う。						
(7)成績評価の方法	題材についての理解状況や現地調査能力の習得の度合いにより評価する。理解状況については文献調査の量やその理解度が、現地調査能力については、調査手法の理解度やデータ取得量が評価の指標となる。						
(8)成績評価の基準	題材についての理解度および現地調査能力の習得に関して、極めて優れていればS（90～100点）、優れていればA（80～89点）、十分身に付けていればB（70～79点）、身に付けていればC（60～69点）の評価を与える。						
(9)事前事後学習の内容	題材に応じた教科書や論文を用いた学習。						
(10)履修上の注意	山岳域での実習調査を伴うため、安全性の観点から事前に教員からの説明を受けることが必要であり、受講者は2年生ガイダンスの時に申し出ること。調査実習は相談の上決定する。なお、希望があれば実習を数日増やすことも可能である。また、宿泊（山小屋・テント等）を伴う実習であるため、共同生活や交通費・宿泊費が発生する。						
(11)質問、相談への対応	随時。						
【教科書】	題材に応じて紹介する。						
【参考書】	題材に応じて紹介する。						